

■教育プログラムに関する自己点検シート【大学院課程用】

■ポリシー関係

区分		設問の趣旨	点検項目	判定(2023年度)	判定理由(2022年度)【必須】	根拠資料
1	ディプロマ・ポリシーの明示	ディプロマ・ポリシー(修了認定・学位授与の方針)を、大学等の目的や『修了認定・学位授与の方針』(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリ	ディプロマ・ポリシー(修了認定・学位授与の方針)において、以下の各項目に係る記述が含まれているか？ ・学生の進路先等社会における顕在・潜在ニーズ	本年度は実施せず		
2	カリキュラム・ポリシーの明示	教育課程方針において、『修了認定・学位授与の方針』(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方	カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)において、以下の各項目に係る記述が含まれているか？	本年度は実施せず		
3	ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性	教育課程の編成及び実施の内容が、「ディプロマ・ポリシー」に示す獲得が期待される能力」を学生が獲得できるものとなっているかを確認できるだけの整合性を有し	カリキュラム・ポリシーがディプロマ・ポリシーと整合性を有しているか？	本年度は実施せず		

■カリキュラム関係

4	教育課程編成の体系性	教育課程の体系性について、科目一覧表や教育課程表以外に、カリキュラム・マップ、コース・ツリー、履修モデル、コース・ナンバリング等の資料が確認できること。 ※カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリー以外の方法で、教育プログラムのカリキュラムにおいて、DPとの関係で過不足なく科目が配置されていることを検証している場合は、当該方法を記載すること。	① 教育プログラム単位のカリキュラム・マップを作成し、DP能力の修得度に対する配点(重み付け)を教育プログラム単位で統一に行っているか？ ※ 修士:農学・乾燥・医学系は「改善完了」 博士:医学系・適合農は「改善完了」	☐ 統一的に行っている ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 行われていることを示す資料(ファイル・URL)
			※ 修士:農学・乾燥・医学系は「改善完了」 博士:医学系・適合農は「改善完了」	☐ 統一的行う作業中		
			※ 修士:農学・乾燥・医学系は「改善完了」 博士:医学系・適合農は「改善完了」	☐ 統一的行っていない		
			② 教育プログラム単位のカリキュラム・ツリーを作成しているか？ ※ 博士:適合農は「改善完了」	☐ 作成している (→ ②2にも回答) ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 明示されていることを示す資料(ファイル・URL)
			※ 博士:適合農は「改善完了」	☐ 作成するよう改訂中		
			※ 博士:適合農は「改善完了」	☐ 作成していない		
			② 《 ②1で「作成している」を選択した場合のみ対象 》 ② 教育プログラム単位のカリキュラム・ツリーにおいて授業科目間の関係をは明確に示しているか？ ※ 博士:適合農は「改善完了」	☐ 明示している ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 明示されていることを示す資料(ファイル・URL)
			※ 博士:適合農は「改善完了」	☐ 明示するよう改訂中		
			※ 博士:適合農は「改善完了」	☐ 明示していない		
			③ カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー以外にも教育プログラム単位のカリキュラムを検証する手段があるか？ ※ 実態把握のための項目(センター判定外)	☐ ある ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 検証していることを示す資料(ファイル・URL)
			※ 実態把握のための項目(センター判定外)	☐ ない		
			④ 教育プログラム単位で、ナンバリングにおける科目コードの構成(付番方法)及び科目ナンバリング一覧を公表しているか？ ※ 修士:工学・農学・乾燥+医学系は「改善完了」 博士:全ての教育プログラムで「改善完了」	☐ 公表している ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 公表されたナンバリングの科目コード・科目一覧(ファイル・URL)
			※ 修士:工学・農学・乾燥+医学系は「改善完了」 博士:全ての教育プログラムで「改善完了」	☐ 公表するよう検討中		
			※ 修士:工学・農学・乾燥+医学系は「改善完了」 博士:全ての教育プログラムで「改善完了」	☐ 公表していない		

		カリキュラム・ポリシーに基づいて、教養教育及び専門教育のバランス、必修科目・選択科目等の配当等を考慮した授業科目が配置されていること。 ※DPとの関係が明らかでない授業科目については、内容の見直しや取りやめの検討が必要になる場合もある(M2-9) ※学生の時間は有限であることを前提に、必修科目を適切に設定し、学生が同時(同学期)に履修する授業科目数についての大胆な絞り込みを進めること ※履修単位の登録上限設定(CAP制の導入)を行っている場合は、以下の点を確認する。 1) 履修単位の登録上限制度の有無 2) 制度の具体的な内容(上限単位数等) 3) 例外の具体的な要件(成績要件と追加登録が可能な単位数等)	⑤ 教育プログラム単位のカリキュラム・マップまたはカリキュラム・ツリーにおいて、全学共通科目を適切に位置づけているか？	☐ 適切に位置付けている ⇒ 根拠資料欄も記入 ☐ 適切に位置付けるよう検討中 ☐ 適切に位置付けていない		※ カリキュラムマップ・ツリーまたはカリキュラム・マップにおける位置づけを示す資料(ファイル・URL)
			⑥ ディプロマ・ポリシーとの関係が明らかでない授業科目はあるか？	☐ DPとの関係が明らかでない授業科目はない ☐ DPとの関係が明らかでない授業科目がある ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 該当科目の一覧
			⑦ 過去5～6年において、学生が同時(同学期)に履修する授業科目の絞り込み(精選)を行ったか？	☐ 絞り込み(精選)を行った ⇒ 根拠資料欄も記入 ☐ 絞り込み(精選)を行うよう検討中 ☐ 絞り込み(精選)を行っていない		※ 絞り込みの実例・新旧対照を示す資料
			⑧ 《医学部・農学部共同獣医学科は対象外》CAP制を厳格に適用しているか？	☐ 厳格に適用している ⇒ 根拠資料欄も記入 ☐ 厳格に適用するよう検討中 ☐ 厳格には適用していない		※ 運用の検証作業を示す資料(ファイル・URL)
			⑨ 《医学部・農学部共同獣医学科は対象外》CAP制の適用を除外する仕組みを定めているか？定めている場合、その規則が適用された学生の割合はどの程度か？	☐ 仕組みを定めている ⇒ 根拠資料欄も記入(右欄に適用された学生の割合を記入) ☐ 仕組みを定めるよう検討中 ☐ 仕組みを定めていない	■適用された学生の割合：	※ 仕組みに関する規則(ファイル・URL)
			※ 修士:医学系は「対象外」 博士:共同獣は「改善完了」			
			※ 修士:医学系・農学・乾燥+地域は「改善完了」 博士:医・農・獣+機械・化学・社会は「改善完了」			
			※ 修士:医学系は「対象外」、持続性は「改善完了」 博士:医学系・共同獣は「対象外」 工学・連合農は「改善完了」			
			※ 《医学部・農学部共同獣医学科は対象外》CAP制を厳格に適用しているか？ ※ 修士・博士:全てのプログラムが「対象外」			
			※ 《医学部・農学部共同獣医学科は対象外》CAP制の適用を除外する仕組みを定めているか？定めている場合、その規則が適用された学生の割合はどの程度か？ ※ 修士・博士:全てのプログラムが「対象外」			

■授業科目関係

5	授与学位の水準に相応しい授業科目の内容	「一単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」との大学設置基準の規定を踏まえ、科目の内容や水準が適切に設定されていること。 ※単位の修得に45 時間の学修が必要であることが、授業科目のシラバスから確認できること。	学生の主体的学修を促し、十分かつ必要な学修時間を確保しているか？ ※ 修士:持続性は「改善完了」 博士:工学・運農・農獣は「改善完了」	☐	十分かつ必要な学修時間を確保している		
				☐	十分かつ必要な学修時間を一部確保している		
				☐	十分かつ必要な学修時間を確保していない		
6	他大学等における単位認定	他の大学又は大学以外の教育施設等における学修、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、大学設置基準に従い、認定に関する規定が定められていること。	他の大学又は大学以外の教育施設等における単位認定を行っている場合、認定に関する規定を定めているか？	今後実施せず			
7	大学院課程における研究指導 《大学院課程のみ》	学位論文の作成や特定課題の研究に関する指導方針が定められていること。	① 学位論文(特定の課題についての研究の成果を含む)の作成等に係る指導(以下「研究指導」という)の基本方針や考え方をが定めているか？ ※学位論文に代えて、特定課題研究を課している場合も含む。 ※ 修士・博士:全ての教育プログラムで「改善完了」	☐	定めている		
				☐	定めていない		
		研究指導の体制が整備され、実施されていること。	② 研究指導の体制を整備し、それに基づく指導を実施しているか？ ※研究指導体制と論文指導体制が異なる場合は、それぞれの体制も含む。 ※ 修士・博士:全ての教育プログラムで「改善完了」	☐	指導体制を整備し、適切な指導を行っている		
				☐	指導体制を整備しているが、適切な指導を一部行っていない		
				☐	指導体制の整備及び適切な指導を行っていない		
		研究倫理教育を毎年受講する体制が整備されていること。	③ 研究倫理教育を毎年必ず受講する体制を整備し、実施しているか？(修士課程・博士前期課程の場合は必修科目「研究者倫理」の配当学年を除く) ※ 修士:農学・乾燥は「改善完了」 博士:農・獣は「改善完了」	☐	毎年の受講体制を整備し、実施している		※ 開講実績を示す資料(ファイル・URL)
				☐	毎年の受講体制を整備するよう検討中		
				☐	毎年の受講体制を整備していない		
8	TAとしての活動を通じた教育・研究能力の育成 《大学院課程のみ》	TAを対象とした個人情報保護に関する組織的教育が実施されていること。	《 修士課程・博士前期課程のみ 》 TAのガイダンス以外で個人情報保護に関する組織的教育を実施しているか？ ※ 修士:農学・乾燥+臨心は「改善完了」 博士:全てのプログラムで「対象外」		個人情報保護に関する教育を実施している		※ 実施を示す資料(ファイル・URL)
				☐	個人情報保護に関する教育を実施するよう検討中		
				☐	個人情報保護に関する教育を実施していない		
9	年間の授業期間	1年間の授業を行う期間が、定期試験等の期間を含め、35週確保されていること。	1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっているか？	今後実施せず			
10	各科目の授業期間	各授業科目が、10週又は15週にわたる授業期間を単位として行われていること。	各授業科目が、8週(クォーター制)又は15週(セメスター制)にわたる授業期間を単位として行われているか？	今後実施せず			
		学生が各授業科目の準備学修等を進めることができるよう、シラバスの記載内容として、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学修等に関する具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等を記入する項目が設定されており、また全科目、全項目について実際に記入されていること。	① 学生が各授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、必要な項目及び内容をシラバスに記載し、全ての授業科目及び全項目について記入しているか？ ※ 修士・博士:全ての教育プログラムで「改善完了」	☐	全ての授業科目において、全て記入している		
				☐	一部の授業科目において、全ては記入していない		
				☐	多くの授業科目において、全ては記入していない		

11	適切な授業形態と学修指導法の採用及びシラバスの公表		② 教育プログラム単位で、シラバス記載内容の骨子(入力要領)を統一しているか？ ※ 修士:全ての教育プログラムで「改善完了」 博士:医学系・工学+連合農は「改善完了」	☐ 統一している ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 統一されていることを示す資料・入力要項 (ファイル・URL)
			※ 統一するよう検討中	☐		
			※ 統一していない	☐		
		全ての授業科目のシラバスが、学生に対して、印刷物の配布、ウェブサイトへの掲載等によって周知されていること。	③ 教育プログラム単位で教員間でのシラバス相互チェックを組織的に行っているか？ ※ 修士:工学+農学+臨心は「改善完了」 博士:工学は「改善完了」	☐ シラバス相互チェックを行っている ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 相互チェックを行った科目一覧
			※ シラバス相互チェックを行うよう検討中	☐		
			※ シラバス相互チェックを行っていない	☐		
		授業形態(講義、演習、実験、実習等の組合せ・バランス)、学修指導法(少人数授業、対話・討論型授業、多様なメディアの活用、能力別授業の実施等)の工夫を積極的にを行っている場合、取組状況について確認できること。	④ 全ての授業科目のシラバス(授業方法及び内容)を、学生に対して明示しているか？ ※ 修士・博士:全ての教育プログラムで「改善完了」	☐ 全ての授業科目のシラバスを周知している ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 周知を示す資料(ファイル・URL)
			※ 一部の授業科目のシラバスを周知していない	☐		
			※ 多くの授業科目のシラバスを周知していない	☐		
		単位制度の実質化が図られていること。	⑤ 教育プログラム単位で、達成目標に対応して特徴的な授業形態・学修指導法の工夫を行っているか？ ※ 修士:全ての教育プログラムで「改善完了」 博士:医学・機械・化学・連農・共獣+社会基盤は「改善完了」	☐ 工夫の取組を行っている		
			※ 工夫の取組を行っていない	☐		
			⑥ 《大学院課程のみ》 単位制度の実質化のために時間外学修を促す仕組みが整備されているか？ ※ 修士・博士:全ての教育プログラムで「改善完了」	☐ 時間外学修の内容・方法がシラバス等に記載されている		シラバスへの記載率
12	教育上主要と認める授業科目の担当教員	大学設置基準で定める「教育上主要と認める授業科目」について、専任の教授又は准教授の配置状況(該当する授業科目数、そのうち専任の教授又は准教授が担当する科目数、専任の講師が担当する科目数)が確認できること。	① 「教育上主要と認める授業科目」の定義を定めているか？ ※ 修士:全ての教育プログラムで「改善完了」 博士:医学・工学・共獣+連合農は「改善完了」 → 全てのプログラムで「改善完了」	☐ 定義を定めている ⇒ 根拠資料欄も記入	■現在の定義:	※ 定義を示す資料(ファイル・URL)
			※ 定義を定めていない	☐		
			② 「教育上主要と認める授業科目」について、原則として専任の教授又は准教授を配置しているか？ ※ 修士:医学系+持続性は「改善完了」 → 全てのプログラムで「改善完了」 博士:医学・工学・共獣+連合農は「改善完了」 → 全てのプログラムで「改善完了」	☐ 全ての科目で配置している		
			※ 8割以上の科目で配置している	☐		
			※ 8割未満の科目で配置している	☐		
			③ 夜間において、授業を実施している課程を置いている場合、そのための配慮を行っているか？	該当せず		

■学修支援関係

14	履修指導の組織的体制と実施	ガイダンス、担任制、学修成果の状況の組織的把握と対応、学修計画の指導、能力別クラス分け、基礎学力不足の学生に対する指導や助言等が行われていること。	① 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導や助言を行っているか？	☐	取組を行っている		
			※ 修士:全ての教育プログラムで「改善完了」 博士:医学・農学・共獣+工学は「改善完了」 → 全てのプログラムで「改善完了」	☐	取組を行っていない		
			② 教育プログラム単位で、特徴的な履修指導を行っているか？	☐	取組を行っている		
			※ 修士:全ての教育プログラムで「改善完了」 博士:医学・農学・共獣+工学は「改善完了」 → 全てのプログラムで「改善完了」	☐	取組を行っていない		
15	学修相談の組織的体制と実施	オフィスアワーの設定、ネットワークを活用した学修相談、本学の状況を踏まえた学修相談や助言等の学修支援等が行われていること。 以下に示すような学修環境が整備されている場合、運用状況について確認できること。 ○学修空間の保証:図書館・自習室の整備 ○学修時間の保証:図書館の開館時間の延長・土日開館 ○学修資料の保証:教育用図書予算配分、シラバス掲載図書コーナーの設置	① 学生のニーズに応え得る学修相談の体制を組織として整備し、支援や助言を行っているか？	☐	取組を行っている	■自習スペースの数: ■自習スペースの利用時間: 午前 時～午後 時	
			※ 修士:全ての教育プログラムで「改善完了」 博士:医学・農学・共獣+工学は「改善完了」 → 全てのプログラムで「改善完了」	☐	取組を行っていない		
			② 教育プログラム単位で、学修環境(自習スペース等)を整備しているか？	☐	学修環境を整備している		
			※整備している場合はその内容と利用時間 ※ 修士:工+地・農・乾・医学系は「改善完了」 → 全てのプログラムで「改善完了」 博士:全てのプログラムで「改善完了」	☐	学修環境を整備していない		
16	社会的・職業的な自立に向けた能力養成の実施	社会的・職業的な自立を図るために必要な能力を培うために、インターンシップの実施、その他教育課程の目的に応じた取組等が行われていること。	社会的・職業的な自立を図るために必要な能力を培う取組を行っているか？	☐	取組を行っている		
			※ 修士:全ての教育プログラムで「改善完了」 博士:工学・連農・共獣+医学系は「改善完了」 → 全てのプログラムで「改善完了」	☐	取組を行っていない		
17	障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学修支援の組織的体制と実施	履修上特別な支援を要する学生への学修支援として、あらかじめこれらの学生の人数等に関するデータを把握した上で、本学の状況を踏まえた学修支援が行われていること。 ※以下に示すような学修支援を行っている場合は確認する。 ○チューター等の配置状況 ○留学生に対する外国語による情報提供(時間割、シラバス等) ○障害のある学生に対する支援状況(ノートテカー等) ○特別クラス、補習授業の実施状況(受講者数等) ○学修支援の利用実績	障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学修支援を行う体制を整備しているか？	☐	学修支援を行っている		
			※ 修士・博士:全ての教育プログラムで「改善完了」	☐	学修支援を行っていない		

■成績評価関係

		評語(S、A、B、C等)を適用する際の科目の到達目標を考慮した成績評価基準が組織として定められていること。	① 成績評価基準は、カリキュラム・ポリシーの「学修成果の評価の方針」と整合性をもって、組織として策定しているか？	☐	成績評価基準を組織的に策定している		
			※ 修士・博士:全ての教育プログラムで「改善完了」	☐	成績評価基準を組織的に策定していない		
		各授業科目の達成水準が、「何を学び、身に付けることができるか」という到達目標に照らして、ルーブリック等によって定量的・定性的に明らかにされ、厳格に点数・評語に反映されていること。	② 各授業科目の具体的な達成水準を、ルーブリック等を用い、明らかにしているか？	☐	達成水準を明らかにしている ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 達成水準を示す資料 (ファイル)
			※ 修士:医は「改善完了」 博士:医・農・獣は「改善完了」	☐	達成水準を明らかにしていない		

18	成績評価基準の組織的 策定	公正で透明な成績評価という観点から、達成水準を測定する手法及びその配点基準があらかじめ明確にされていること。	③ 各授業科目の達成水準を測定する手法(試験、レポート等)及び配点基準を予め明確にしているか？ ※ 修士:地・医・農・乾は「改善完了」 博士:医学系・共同獣+連合農は「改善完了」	☐	達成水準の測定手法及び配点基準を明確にしている ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 測定手法・配点基準を示す資料 (ファイル)
				☐	いずれかを明らかにしていない		
				☐	いずれも明らかにしていない		
		DPIに定められた特定の資質・能力と極めて関連性が深い授業科目において、ルーブリックが作成され、当該資質・能力の修得状況が直接的に評価されていること。	④ ディプロマ・ポリシーに定められた特定の資質・能力と極めて関連性が深い授業科目(PBL・フィールドワーク・卒業研究等)において、ルーブリックを作成し、資質・能力の修得状況を評価しているか？ ※ 修士:医学系は「改善完了」 博士:医学系は「改善完了」	☐	ルーブリックにより評価している ⇒ 根拠資料欄も記入		※ ルーブリックの一覧(ファイル)
				☐	ルーブリックにより評価するよう検討中		
				☐	ルーブリックにより評価していない		
19	成績評価基準の公表	成績評価基準が学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知されていること。	① 成績評価基準を学生に周知しているか？ ※ 修士・博士:全ての教育プログラムで「改善完了」	☐	成績評価基準を周知している ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 周知を示す資料(ファイル・URL)
				☐	成績評価基準を周知していない		
		全学的な成績評価基準に基づく評語(S、A、B、C等)と、各授業科目の到達目標・達成水準との関係が公表され、成績表等へ記載されていること。	② 教育プログラム単位で各授業科目の具体的な達成水準1を明らかにしているか？ ※ 実態把握のための項目(センター判定外)	☐	明らかにしている(→②2にも回答) ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 記載を示す資料(ファイル・URL)
				☐	明らかにしていない		
			② 《②1で「明らかにしている」を選択した場合のみ対象》 2 達成水準を明らかにしている場合、評語と達成水準の関係を公表し、成績表等へ記載しているか？ ※ 実態把握のための項目(センター判定外)	☐	成績表等に記載している ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 記載を示す資料(ファイル・URL) (教育プログラム単位独自の資料)
				☐	成績表等に記載するよう検討中		
				☐	成績表等に記載していない		
		大学院における教育は専門性が著しく高いため、狭義の専門分野以外の学生に対する成績評価が甘くなる傾向にあるという状況を踏まえ、事後検証の可能な厳格な成績評価が行われていること。	① 《大学院課程のみ》 事後検証の可能な厳格な成績評価を行っているか？ ※ 修士:工学+医学系は「改善完了」 博士:医学系・機械・情報・化学・共同獣+連合農は「改善完了」	☐	厳格な成績評価を行っている ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 研究科学務委員会等での資料や審議内容の記録等
				☐	厳格な成績評価を行うよう検討中		
				☐	厳格な成績評価が行われていない		
20	成績評価や単位認定に 関する組織的実施	各授業科目において、成績評価基準を踏まえた成績評価が行われているかを、教務委員会等の点検を通じて事後的に検証する仕組みが作られていること。	② カリキュラム・ポリシーの「学修成果の評価の方針」に照らして、組織として成績評価の事後検証(成績分布のチェック等)を行っているか？ ※ 修士:地域・医学系は「改善完了」 博士:化学・連合農+医学系は「改善完了」	☐	事後検証を行っている		
				☐	事後検証を行うよう検討中		
				☐	事後検証を行っていない		
		同一名称・到達目標の授業科目を複数教員が分担している場合、ルーブリックの活用などにより成績評価に関する担当教員の共通理解が構築され、成績評価の平準化が図られていること。	③ 同一名称・到達目標を有する授業科目を複数教員が分担している場合、成績評価の平準化を行っているか？ ※ 修士:医学系は「改善完了」 博士:医学系+情報・連合農は「改善完了」 社会基盤は「対象外」	☐	平準化を図っている ⇒ 根拠資料欄も記入		※ その方法と事例を示す資料(ファイル)
				☐	平準化を図るよう検討中		
				☐	平準化を図っていない		

		GPA制度が以下に示すような取組において活用されていること。 ○学生に対する個別の学修指導 ○奨学金や授業料免除対象者の選定 ○履修上限単位制限の解除 ○進級・卒業判定、退学勧告 ○大学院入試の選抜 ○早期卒業や大学院への早期入学	④：GPA制度を活用しているか？ ※例示以外で活用している場合はその実施状況 ※ 修士：全ての教育プログラムで「改善完了」 博士：工学は「改善完了」	☐ 活用している ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 左記以外の活用事例を示す資料 (ファイル・URL)
				☐ 活用するよう検討中		
				☐ 活用していない		
		共同教育課程を編成する学科の場合、成績評価や単位認定について、構成大学を通じて一貫したものと なっていること。	⑤：《 共同獣医学専攻のみ 》 成績評価や単位認定について、構成大学(岐阜大学)を 通じて一貫したものとしているか？ ※ 該当する全ての教育プログラムで「改善完了」	☐ 一貫したものとしている		
				☐ 一貫したものとしていない		
21	成績に対する異議申立て 制度に関する組織的実施	成績に対する異議申立て制度が組織的に整備され、 成績に関する異議の受付窓口が教員のみとなってい ないこと、受付後の対応の手順・様式等が定められ、 実施されていること。	成績に対する異議申立て制度を組織的に運用してい るか？ ※ 修士・博士：全ての教育プログラムで「改善完了」	☐ 組織的に運用している		
				☐ 組織的に運用していない		

■ 修了要件関係

22	修了要件の組織的策定	大学が定める修了の要件(以下「修了要件」という。)が組織として策定され、大学設置基準等が定める要件と整合的であること。	①：修了要件を組織的に策定しているか？ ※ 修士・博士：全ての教育プログラムで「改善完了」	☐ 策定しており、全て整合性を取れている		
				☐ 策定しているが、一部整合性を取れていない		
				☐ 策定しているが、全く整合性を取れていない		
23	学位論文審査基準の組織的策定 《 大学院課程のみ 》	修業年限の特例措置等を講じている場合は、法令に従い適切に規定を整備していること。	②：《 工学専攻・工学研究科のみ対象 》 早期修了及び大学院への飛び入学に関する要件を、学部・研究科の関連規則等に定めているか？ 学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準(以下「学位論文審査基準」という。)を組織として策定しているか？ ※ 修士・博士：全ての教育プログラムで「改善完了」	今後実施せず		※ 規則を示す資料(ファイル・URL)
				☐ 学位論文審査基準を策定している		
				☐ 学位論文審査基準を策定していない		
24	修了要件の公表	学生に対して、修了要件が刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知されていること。	策定した修了要件(学位論文評価基準を含む)が学生に周知されているか？ ※ 修士・博士：全ての教育プログラムで「改善完了」	☐ 修了要件を周知している ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 周知を示す資料(ファイル・URL)
				☐ 修了要件を周知していない		
25	修了認定の組織的実施	修了要件(学位論文評価基準を含む)に則して、修了の認定(修了判定に関する教授会等の審議及び学長の最終決定等)が、組織的に実施されていること。	修了の認定を、教授会規則等に基づき実施しているか？ ※ 修士・博士：全ての教育プログラムで「改善完了」	☐ 規則に基づき実施している		
				☐ 規則に基づき実施していない		

■学修成果

26	学修成果の把握(修了率、資格取得、受賞等)	以下に示す学修成果について確認する。 ○標準修業年限内の修了率 ○「標準修業年限×1.5」年内修了率 ○資格の取得状況 ○論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況 ※資格取得、受賞・表彰等により証明される資質・能力とは、DPIに定められた資質・能力を直接的に測定できるもの、当該資質・能力に関連するエビデンスを提示できるもの等を示す。	①:ディプロマ・ポリシーに則して、標準修業年限内の修了率及び「標準修業年限×1.5」年内修了率(過去5年分)の状況が妥当であるか？	☐	双方の修了率が9割以上で、十分妥当である		
				☐	双方の修了率が7－9割で、妥当である		
				☐	双方の修了率が7割未満で、妥当ではない		
			②:教育プログラム単位で、資格取得、受賞・表彰等により証明される資質・能力とディプロマ・ポリシーに定められた資質・能力との関係を整理しているか？ ※修士:臨床は「改善完了」 ※博士:情報は「改善完了」	☐	整理している (→③にも回答) ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 関係を示す資料(ファイル)
				☐	整理するよう検討中		
				☐	整理していない		
	学修成果の把握(語学力検定等)	以下に示す学修成果について確認する。 ○語学力検定等の学外試験のスコア ※学外試験により測定することができる資質・能力とは、DPIに定められた資質・能力を直接的に測定できるもの、当該資質・能力に関連するエビデンスを提示できるもの等を示す。	③:《②で「整理している」を選択した場合のみ対象》 ディプロマ・ポリシーに則して、資格取得の状況が妥当であるか？ ※修士:臨床は「改善完了」 ※博士:情報は「改善完了」	☐	妥当である		
				☐	妥当ではない		
			④:教育プログラム単位で、学外試験により測定することができる資質・能力とディプロマ・ポリシーに定められた資質・能力との関係を整理しているか？	☐	整理している ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 関係を示す資料(ファイル)
				☐	整理するよう検討中		
				☐	整理していない		
			⑤:《②で「整理している」を選択した場合のみ対象》 ディプロマ・ポリシーに則して、語学力検定等の学外試験のスコアが妥当であるか？	☐	妥当である ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 試験結果を示す資料(ファイル)
				☐	妥当ではない		
	学修成果の把握(特定のDP能力の修得状況)	以下に示す学修成果について確認する。 ○授業科目名、到達目標、到達目標とDPとの対応関係、成績評価基準、成績評価手法及び評価の分布状況 ○学生個人の評定及び同一科目履修者内での当該評定の位置付け ○個々の学生の修得単位数、単位修得の履歴及びその時点において標準的に期待される修得単位数 ○当該授業科目により獲得できる資質・能力の取得状況 ○当該授業科目の科目名、到達目標、到達目標とDPとの対応関係、成績評価基準及び成績評価手法 ○DPIに定められた資質・能力のうち、当該授業科目により直接的に測定することができるものの達成状況に関する全体的な状況	⑥:ディプロマ・ポリシーに定められた特定の資質・能力の修得状況を直接的に評価することができる授業科目を選定しているか？ ※修士:臨床+乾燥は「改善完了」 ※博士:工学・運合農は「改善完了」	☐	選定している ⇒ 根拠資料欄も記入		※ 当該科目の一覧(ファイル)
				☐	選定するよう検討中		
				☐	選定していない		
			⑦:当該授業科目において、ルーブリック等を用いて特定の資質・能力の修得状況を評価しているか？	本年度は実施せず			

27	学修成果の把握(就職・進学率、主な就職／進学先等)	以下に示す学修成果について確認する。 ○就職率(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学率の状況 ○主な進学や就職先(起業者も含む) ○修了生の社会での活躍等	①	ディプロマ・ポリシーに則して、就職率(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学率の状況が妥当であるか？	☐	妥当である		
					☐	妥当ではない		
			②	ディプロマ・ポリシーに則して、就職先及び進学先の状況が妥当であるか？	☐	妥当である		
					☐	妥当ではない		
28	学修成果の把握(学生からの意見聴取結果)	以下に示す学修成果について確認する。 ○学修の達成度や満足度に関するアンケート調査 ○学修ポートフォリオの分析調査 ○学生の成長実感・満足度に関するアンケート調査 ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の、DPIに定められた資質・能力の伸長に対する主観的な評価とその平均値 ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の、DPIに定められた資質・能力の伸長に対する主観的な評価の年度毎の平均値及び分布その他の全体的な状況	①	修了時における学生からの意見聴取結果(学修の達成度や満足度に関するアンケート調査、eポートフォリオの分析調査等)を踏まえて、ディプロマ・ポリシーに則した学修成果は、前年度に比較してどのような状況か？	☐	学修成果が認められる		
					☐	学修成果が認められない		
					☐	意見聴取を実施していない		
			②	各学年における学生からの意見聴取結果(学修の達成度や満足度に関するアンケート調査、eポートフォリオの分析調査等)を踏まえて、ディプロマ・ポリシーに則した学修成果の伸長は、前年度に比較してどのような状況か？	☐	学修成果が認められる		
					☐	学修成果が認められない		
					☐	意見聴取を実施していない		
29	学修成果の把握(修了生からの意見聴取結果)	以下に示す意見聴取等で学修成果について確認する。 ○卒業(修了)生向けアンケート調査 ○卒業(修了)生との懇談会 ○卒業(修了)生へのインタビュー		修了後において、一定期間を経過した修了生からの意見聴取(アンケート、懇談会、インタビュー等)の結果を踏まえて、教育プログラムの定めるディプロマ・ポリシーに則した学修成果が認められるか？	☐	学修成果が認められる		
					☐	学修成果が認められない		
					☐	意見聴取を実施していない		
30	学修成果の把握(就職先等の関係者からの意見聴取結果)	以下に示す意見聴取等で学修成果について確認する。 ○就職先企業向けアンケート調査 ○就職先企業との懇談会 ○就職先企業へのインタビュー		就職先等の関係者からの意見聴取(アンケート、懇談会、インタビュー等)の結果を踏まえて、教育プログラムの定めるディプロマ・ポリシーに則した学修成果が認められるか？	☐	学修成果が認められる		
					☐	学修成果が認められない		
					☐	意見聴取を実施していない		